



フットワークも軽く、予防を中心に 地域の口腔衛生の向上に 地道に取り組む

青森県黒石市にある「こだま歯科医院」は、開業して13年。
口腔外科が専門の児玉丹奈院長は、
地道に地域の口腔衛生の向上に取り組んできた。
開業からの歩みや女性の歯科医師としての働き方について伺ってみた。



こだま歯科医院 院長 児玉 丹奈 先生

結婚を機に青森県に移転。 子どもの成長に合わせて開業を決意

児玉丹奈院長は、東京の出身。歯科大学も日本
大学歯学部を卒業している。それまでまったく縁の
なかった青森県に移り住むことになったきっかけは、
結婚だった。気象学者の夫が弘前大学へ赴任する
ことが決まり、児玉院長も転居を決意した。

青森に移ってからは、弘前大学医学部附属病院の
口腔外科や弘前市の歯科医院に勤務したり、子育て
に専念した時期もあった。
「開業したのは2004年です。2人の子供が小学校と
中学校に上がるタイミングで、ここを逃したら開業の
チャンスはないと決意しました」

開業準備には1年かかった。人口の多い弘前市より
黒石市を選んだのは、子育てとの両立も考え、激戦区
より、無理のない範囲で、と考えたからだ。子育て中
のプランクもあり、焦りや不安もあったが、育児を経験
したことやママ友ができたことで、歯科医院に通う母親
たちの気持ちもよくわかるようになった。

「今、子育て中で開業や復帰をどうしようか考えている
女性の歯科医師もいると思いますが、その経験は必ず
活きます。自信を持って欲しいです」

地方開業のメリットは、東京ほど人件費などの固定費が
かからないことだ。自費診療専門の歯科医院は成り立ち

にくい、保険診療を中心に、地域の口腔衛生の向上に
貢献できるというやりがいもある。女性歯科医師であれば、
子育てとの両立を考えると、職住一体にできるのも魅力だ。
「今、歯科医院がある場所は、小学校が近く、幹線道路
につながる通り道でもあるので、落ち着いた環境なが
ら、患者さんの通院に便利なのも気に入っています」

補綴物の補修から始まり、 開業5年で予防への理解が深まる

こだま歯科医院は開業から1か月目こそ赤字だったが、
その後の経営は順調だった。2台で始まったチェア数も
半年後には3台、2年後は4台に増えた。

児玉院長が開業から重視していたのは、東京や弘前で
培った経験をそのまま治療に生かすことだった。電子カルテ
も開業時から導入。幸い、経験豊富な歯科衛生士を開業
当初からスタッフとして雇うことができたのも、スタート
ダッシュに役立った。

黒石市で開業した当初は、児玉院長は、患者の口腔
の状態に驚いたという。

「一番、治療で多かったのが、壊れた補綴物の修復や入れ
歯の治療でした。歯が抜けたままの患者さんがいたので、
入れ歯を使わない理由を聞くと、噛むと入れ歯が口から
飛び出してしまうから、と話す方がいたほどです。あの頃は、
予防の大切さを啓蒙するより先に、患者さんの口腔衛生



キッズコーナーを併設した待合室



開放感ある仕切りの少ない診療室



待合室にはコーヒーマシンも設置



カウンセリングも可能な回転式チェア



根管治療に活用しているNd:YAGレーザー

を整えることが優先でした」

児玉院長が患者からの厚い信頼を獲得することができたのは、分かりやすい説明を心がけ、丁寧な治療をこつこつと続けたからだ。東京や大学病院で学んだ経験を生かし、質の高い治療を提供した。

患者の虫歯や入れ歯治療が一通り終わるまでに5年ほどかかったが、その頃からリコールの数が増え、今では1日20人ほどの患者のうち、2割が予防の受診だという。

最新治療の積極的な導入に つながる勉強熱心な姿勢

開業からこれまで児玉院長が変わらないのは、つねに最新の歯科学を学ぼうという勉強熱心な姿勢だ。

東京などで開催されるセミナーや勉強会にも足繁く通い、最新の歯科治療情報をキャッチし、習得してきた。「今はインターネットもありますし、歯科雑誌をめくれば興味深い治療法の情報が入手できます。気になった治療法があったら、すぐに勉強に行くようにしています」

最近では、インプラントと矯正歯科の治療精度の向上のため、CTを導入。根管治療には、Nd:YAGレーザーを活用している。

予防歯科外来では、メディカルトリートメントモデルに加え、除菌療法「3DS」も採用している。口腔内の状態を

チェックし、定期的にクリーニングするだけでなく、一歩進めて、歯周病菌や虫歯菌を除菌することで、さらに効果的な予防が臨めるという。

そして今、児玉院長が新しいチャレンジとして取り組んでいるのが、歯周再生治療だ。

一つは、抜歯した乳歯を預かり、将来に供える骨髄再生バンク。もう一つは、骨の幅や高さがなときに欠損した骨組織を再生させるGBR(骨誘導再生)法だ。3つめは、塩基性繊維芽細胞増殖因子剤の「リグロス」を使用した再生療法。リグロスには、生体に対して血管を作り出す作用があり、血管だけでなく、粘膜や歯の周囲を取り巻く繊維や骨を再生させるとして注目されている。「今は再生治療に一番、興味がありますね。インプラントにも関わる領域ですし、再生治療がさらに進めば、歯科治療も大きく変わると思っているからです」

ライフステージに合わせて柔軟に 患者本位の治療を工夫

こだま歯科医院の患者には、30～40代の女性が多いこともあり、児玉院長は、患者の治療環境の向上やコミュニケーションを深めることにも、力を注いでいる。待合室に患者が好きなタイプのコーヒーを自由に飲める



待合室より一段高くし、豊敷きにしたキッズコーナー



CTを設置したレントゲン室



明るい雰囲気洗面所

カフェマシンを置いたり、子どもを持つ母親が気になる口呼吸への理解を深める本を置いたりしている。

9月下旬には、ホームページを全面リニューアルし、オンライン診療予約のシステムや問診票が事前にダウンロードできるページも新設した。ホームページのコンテンツには、「絵を描くのが好き」という児玉院長のマンガブログやLINEスタンプを紹介するページもある。

フットワークが軽く、自身が興味を持ったことには素早くチャレンジする児玉院長だが、家庭との両立はどのようなだろう。

「今は2人とも成人したので楽になりましたが、家事は家政婦さんに任せてきました。歯科医院で治療している時間が長いので、家事までは手が回らなくて。1日の時間には限りがありますから、何を優先するかを考え、割り切ることも必要だと思います」

65歳までは現役で働きたいと話す児玉院長。これからは、訪問歯科診療にも意欲的に取り組みたいと考えている。黒石市でも患者のニーズは増えているが、東京などの大都市に比べると、歯科医療側の体制が整わず、

まだまだこれからという部分が多い。そんな状況を改善していきたいと言う。

「患者さんとして通っていたお嬢さんが歯科医師の卵になったんですが、彼女に将来、歯科医院を任せてもいいかなとも考えています。これからも状況に柔軟に対応しながら、患者さんの歯を守っていききたいですね」



児玉院長とスタッフのみなさん

PROFILE

児玉 丹奈 先生

●1987年 日本大学歯学部卒業。日本大学歯科病院口腔外科第Ⅱ講座入局 ●1988年～1989年 部内の複数の歯科医院に勤務 ●1989年～1990年 弘前大学医学部附属病院歯科口腔外科講座に入局勤務 ●1996年～1997年 弘前市の歯科医院に勤務 ●2004年 こだま歯科医院開業 ●青森インプラント研究会 ●皇陵矯正研究会で研鑽を積む ●日本口腔インプラント学会会員 ●顎顔面口腔形成研究会会員 ●日本再生医療学会会員 ●AHA(アメリカン・ハート・アソシエーション) Healthcare Provider ●ブローネマルク インプラント ドクターコース受講

こだま歯科医院

住所: 青森県黒石市迫子野木1丁目247-39 TEL: 0172-53-6874 HP: <http://www.kodama-do.com/>